

図書館だより

今回のPOPは2年生の広報係が担当で、第1回書店めぐりで購入した本の中から選んで作成しました。初めてPOPを作成する人も頑張って作成したので、実物のPOPもぜひ見てください。POPは図書館内に本と一緒に置いてあります。

『境界のメロディ』

宮田俊哉(著) KADOKAWA

音楽から離れていた青年キョウスケが、
死んだはずの相方カイと再会し、再び音楽と
向き合っていく。失ったものと向き合いながら、
心の境界を越えて進む姿を描いた、
切なくも希望に満ちた物語です。



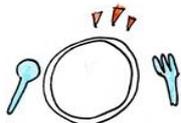
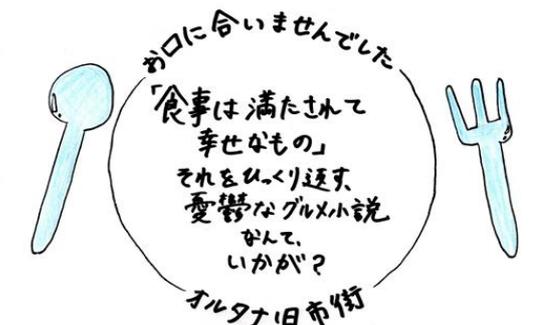
境界のメロディ

音楽を失った青年が
死んだはずの相方と再会。
再び音と心を取り戻していく
感動の青春小説。

『お口に合いませんでした』

オルタナ旧市街(著) 太田出版

フードデリバリーのシチュ。小さな遊園地で
売っていたクレープ。激安な居酒屋の肉寿司……。
果たしてそれらは、本当に「美味しい」ものだろうか？
食事は満たされ、幸せな、あたたかいもの。
その常識をひっくり返すグルメ小説。

お口に合いませんでした

「食事は満たされて
幸せなもの」
それをひっくり返す、
変替なグルメ小説
読んで、
いかが？

オルタナ旧市街

『とりほん 飼い鳥のほんねがわかる本』

もねニ(マンガ) 石磯崎哲也(監修) 西東社

飼い鳥の気持ちをていねいに読み解く一冊。しくさや鳴き声の意味から、
気持ちの変化までをイラスト付きで解説。
鳥を飼っている人や、鳥好きの人におすすりめです！



とりほん

飼い鳥のほんねがわかる本

『わたしの声が消えたあと』
 蛭原 敬明 (著) PHP 研究所

人付き合いが苦手な青年と声優探偵!?
 謎の伯母からの遺言「私の声を見つけて」に挑む青春ミステリー。
 人の心の奥に思いを丁寧には描いた
 作品が好きな人におススメです!



『境界線』

中山七里 (著) 宝島社

震災によって妻子が行方不明となった刑事 誠一郎のもとに妻の訃報が届くところから始まります。遺体を確認するがそれは妻を別乗した別人のもの。どのようにして妻の戸籍を偽っていたのか、身元を探るうちに浮かび上がる震災後の混乱と喪失によって生じた様々な「境界線」が描かれています。



『猫と罰』

宇津木 健太郎 (著) 新潮社

「猫に九生あり」猫には九つの命があるということわざ通り、すでに八つの命を終えた主人公の黒猫。最後の命、孤独な黒猫が出会ったのは、とある古書店「北斗堂」を営む魔女だった。魔女は一体何者なのか、罰とは何なのか。



シンデレラの三法則 ウィザード・リリー
 講談社

夢は待つもの(かなく、つかみに行かぬ)。
 いつか自分にも「魔法」が起きるかもしれない。
 そう願うだけでは、何も変わらない。
 この本は、「夢をつかむための考え方」も「チャンスを見つけたら」を教えてくれる一冊です。

